



日本史⑨ (壬申の乱)

2月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2024年2月21日(水)

壬申の乱の前と後では、日本史が分断しており、**歴史が変わる**という感が濃厚に感じられる。

「**天下分け目の決戦**」という徳川家康と豊臣秀頼を補佐した石田三成が戦った関ヶ原の戦いを思い浮かべるが、「**壬申の乱**」はそれよりはるかに重要な事件だと考えられる。

「**日本**」と「**天皇**」という名称が成立したのが壬申の乱後の**天武・持統期**である可能性が強い。それまでの「**倭**」に対し、「**日本**」という国号は701年の大室律令の制定の過程で生まれたという説が有力であり、それまで「**大王**」だったのが「**天皇**」号もその頃に生まれたという説が有力である。

672年壬申の乱は、**天智天皇**の弟、**大海人皇子**(後の天武天皇)が天智の子である**大友皇子**(弘文天皇)を首長とする近江朝廷に達して起こした歴史上の**古代最大の内乱**である。

皇位継承の問題を直接の原因とし、大化の改新以来の天智の政策に不満を持つ者も多く、近江朝廷から疎外された豪族や東国地方の豪族の果たした役割は特に大きいと言われる。

勝利を得た大海人皇子は天武天皇となり、この新王権のもとで、**天皇を中心とする強力な中央集権国家**が形づくられていった。

大化の改新で計画された天皇制律令国家の成立に関し、この乱の持つ歴史的意義は大きいとされる。

近江政権を倒した**天武天皇**は、新政権の下で自分が理想とする支配体勢を作ることに専念し、そのことに成功したと考えられる。

それは、その後に続く**日本の国体の基礎**を作り、**天皇制**という制度を今に続ける最初となった。これは**天武天皇の築いた国体**であるとともに、その兄の**天智天皇が大化の改新で築こうとしたもので、壬申の乱という両者相反する立場での戦争のように見えるが、その実は両者が共に目指した日本の国体であったのではなかろうか。**

参考：(日本史史料集 山川出版社、日本通史 复旦大学出版社)
(日本を千年王国にした女性・持統天皇 小林弘潤 2015.11.2)